

2023 年 7 月 26 日（水）1 時限

井上寿一

2023 年度・日本政治外交史 I ・学期末試験問題

□解答上の注意

- 1 この試験は持込み不可です。
- 2 設問順に解答してください。
- 3 解答用紙の解答欄は、各自で調整の上、作成してください。
- 4 解答用紙は 1 枚（両面使用可）のみです。
- 5 指定行数を守り、1 行の文字数は常識の範囲内で少なすぎないように注意してください。

〔問題 I－A〕（10 問×2 点）

幕末維新期における日本の政治と外交に関する以下の略年表の（ ）に当てはまるもっとも適切な語句（人名はフルネームで、年号は西暦で）を記入してください。解答は設問順に(a)△△というように記入してください。

〈略年表〉

- 1854 年 日米(a)条約。
1863 年 イギリスと(b)藩の戦争。
1864 年 (c) 事件。
(d) 年 廃藩置県。
1868 年 (e)の太号令。
1871 年 (f) 遣外使節の出発。
1871 年 日清(g)条規。
1876 年 李氏朝鮮の(h)。
(i) 年 大日本帝国憲法の発布。
(j) 年 国会開設。

【解答例】

a 和親 b 薩摩 c 下関 d 1871 e 王政復古 f 岩倉 g 修好 h 開国 i 1889 j 1890

〔問題 I－B〕（1 問×10 点）

以上の略年表を参考にしながら、なぜ日本は、非西欧世界において他の国に先がけて、近代化に離陸することができたのか、解答用紙 5 行以上 10 行以内で、可能な限り具体的に論述してください。

【解説】

以下の事項に言及しているかどうかが評価のポイントです。文章表現の巧拙は問いません。

- ① 日本の開国が交渉条約によるものだったこと(清朝中国との比較において)
- ② 日本の政治指導者の可変性と柔軟性による合従連衡
- ③ 民族革命としての明治維新

〔問題Ⅱ－A〕(10問×2点)

以下の文章の()に当てはまるもっとも適切な語句(人名はフルネームで、年号は西暦で)を記入してください。解答は設問順に各自で(1)××というように記入してください。

(1)にともなう大隈重信内閣の外交失策とあいまって、政友会の(2)が首相の座に就く。さらに 1922 年には日中間で(3)条約が締結される。ワシントン会議では中国の「門戸開放」などを定めた(4)条約が締結される。中国の「門戸開放」とは中国市場へのアクセス権のことでもあった。さらに 1925 年には(5)会議が開かれる。こうして日中関係は協調的になっていく。

しかし 1926 年から蒋介石が(6)を開始し、翌 1927 年から 1928 年にかけて、田中義一内閣の下で 3 度にわたる(7)がおこなわれると日中関係は悪化する。それでも「対支親善」を掲げる民政党の(8)が首相の座に就くと、日中関係も修復に向かった。

国際連盟との関係では(9)が常設国際司法裁判所所長として活躍したり、(10)問題に関する国際連盟の会議の議長国になったりして、日本は重要な役割を果たすようになっていった。

【解答例】

1 対華 21 か条要求 2 原敬 3 山東懸案解決条約 4 9 国 5 北京関税特別会議
6 北伐 7 山東出兵 8 浜口雄幸 9 安達峰一郎 10 少数民族

〔問題Ⅱ－B〕(1問×10点)

以上の文章を参考にしながら、1920 年代の日本の会議外交の意義と限界を明らかにしながら、1920 年代の日本の会議外交が今日の日本外交にどのような歴史的示唆を与えているのか、解答用紙 5 行以上 10 行以内で、可能な限り具体的に論述してください。

【解説】

意義として「国際協調」の精神の共有、限界として合意事項が見順とあいまいさを持つ妥協だったことを国際連盟外交とワシントン会議に言及して論述することが求められています。G7 広島サミットと比較しながら、今日に示唆するところは何か言及してください。

〔問題Ⅲ－A〕(10問×2点)

以下の文章の()に当てはまるもっとも適切な語句を記入してください。解答は設問順に各自で(ア)〇〇というように記入してください。

日露戦争の結果、日本は旅順・大連と(ア)およびその附属地を獲得した。この権益を守る任務の(イ)の謀略によって、満州事変が起きる。外からのクーデタとしての満州事変に対して、二大政党は(ウ)構想によって対抗する。政党勢力の巻き返しにともなって、満州事変の拡大にブレーキがかかる。満州事変は(エ)案で収拾される可能性が生まれた。しかしこの可能性は失われる。政党内閣も崩壊する。

ところがその後、「非常時小康」が訪れる。政党の軍部批判が起きる。外交に関しても、たとえば 1933 年 6 月開催の国際会議である(オ)に参加したり、あるいはイギリスとの間で(カ)案が検討されたりするようになり、中国との間でも日本側が 1935 年 10 月に(キ)を示して、日中関係も修復に向かうかにみえた。

それにもかかわらず、この年(1935 年)、日本国内では菊池武夫貴族院議員の発言をき

かけとする（ク）問題やこの年8月に（ケ）というテロ事件が起きた。さらに中国本土では日本の現地軍が（コ）に踏み切って、日中関係は悪化した。その結果、1937年7月から日中戦争が始まった。

【解答例】

ア 満鉄(南満州鉄道) イ 関東軍 ウ 協力内閣 エ 小満州独立政権 オ ロンドン世界経済会議 カ 不可侵協定 キ 広田 3 原則 ク 天皇機関説 ケ 相沢事件 コ 華北分離工作

〔問題Ⅲ－B〕（1問×10点）

以上の文章を参考にしながら、日中戦争が回避可能だったとすれば、日中戦争はどうすれば回避可能だったのか、解答用紙5行以上10行以内で、可能な限り具体的に論述してください。

【解説】

分岐点としての北京関税特別会議または満州事変、あるいはその両方を取り上げて、欧米諸国との協調の観点および外交・安全保障政策と国内政治との相互作用の観点の二つの観点から日中戦争回避の具体的な可能性を論述することが求められています。